

来年の4月1日から

麻しんと風しんの予防接種が変わります

予防接種の制度改正については「広報なりた」で既にお知らせをしましたが、「まだ麻しんの接種しか済んでいない子はどうか」「日本脳炎は本当に接種しなくても大丈夫？」などの問い合わせが増えていきます。そこで、「麻しん・風しん」「日本脳炎」の予防接種の制度改正について、あらためてお知らせします。



主な改正点(下表)

ワクチン：麻しんと風しんの単独ワクチンをそれぞれ1回ずつの接種から、麻しん・風しん混合ワクチンによる予防接種になります。

接種回数と接種年齢：混合ワクチンで1期と2期の2回接種で1期は生後12カ月から24カ月未満の間に、2期は小学校入学1年前から入学の前日までが対象となります。

未接種またはいずれか一方が未接種の人は

既に1歳を過ぎ、いずれも未接種のお子さんへ、来年の3月31日までに麻しん・風しんの接種を済ませましょう。とくに、改正後の接種対象年齢に該当しないお子さんは十分注意してください。

予防接種は計画的に

市では、生後1カ月になると「成田市予防接種問診票つづり」と「予防接種と子どもの健康」の冊子を送付しています。予防接種はそれぞれ接種対象年齢が違うので、注意事項をよく読み予防接種のスケジュールを立てましょう。

予防接種は体調の良いときに受けるのが原則です。分からないことや体調が悪いときは無理をしないでかかりつけ医に相談しましょう。

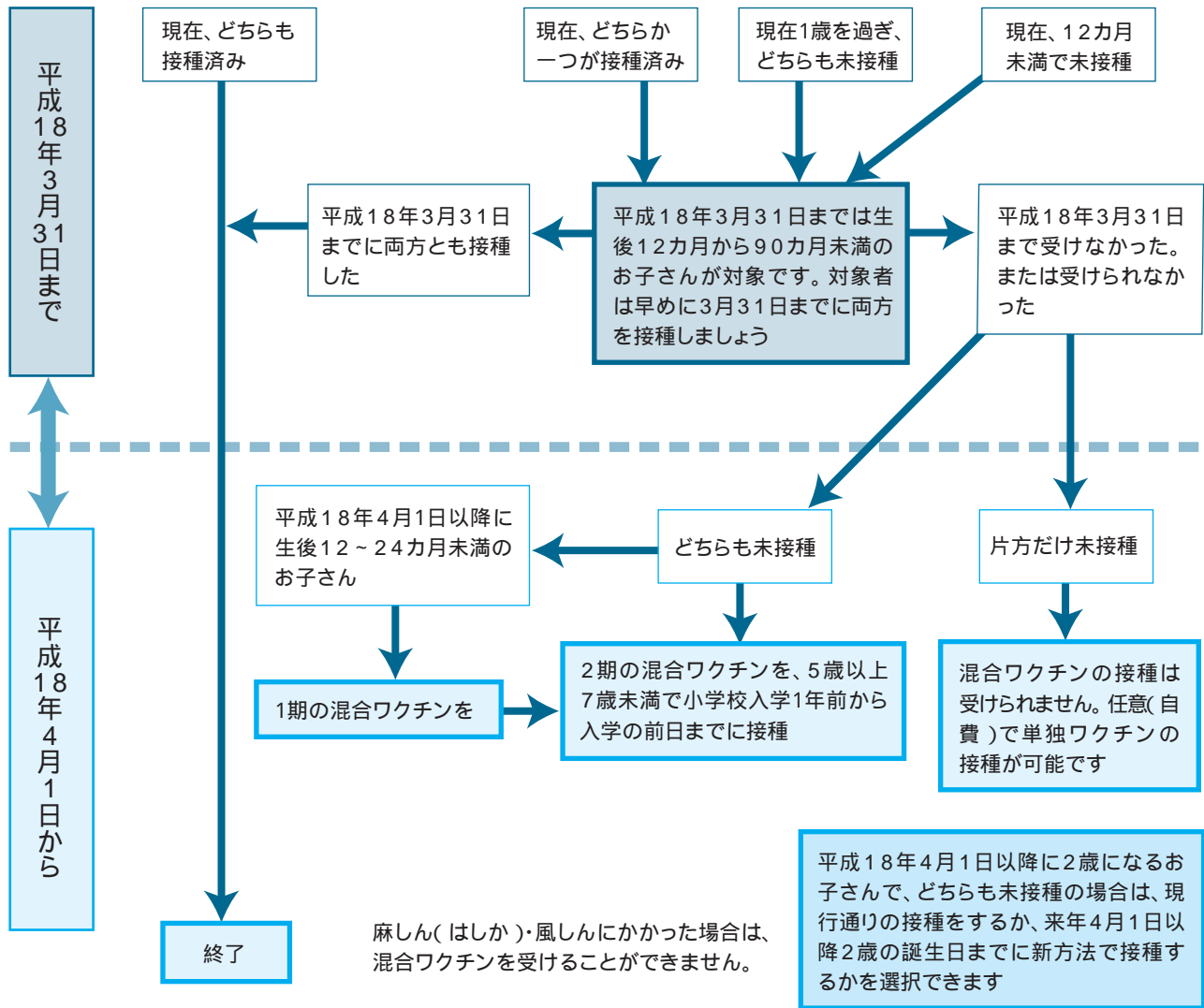


また、麻しん・風しんのどちらか片方が未接種の場合は、平成18年3月31日までに接種を済ませましょう。
なお、麻しん・風しんの予防接種の受け方は、お子さんの誕生日によって対応が異なりますので、次ページの図を参考にしてください。

麻しん・風しんの予防接種の改正比較表

改正前(平成18年3月31日まで)			改正後(平成18年4月1日から)		
ワクチン	接種対象年齢	接種回数	ワクチン	接種対象年齢	接種回数
麻しん(単独)	1歳～7歳6カ月	1回	麻しん風しん(混合)	第1期 12カ月～24カ月未満	1回
風しん(単独)	1歳～7歳6カ月	1回		第2期 5歳～7歳未満 (小学校就学の1年前から就学の前日まで)	1回

麻しん・風しん予防接種の受け方フロー図



「日本脳炎ワクチン接種の積極的勧奨差し控え」についてのQ&A

今年の5月末に厚生労働省から「日本脳炎ワクチンの積極的勧奨を差し控える」というと通告がありました。理由は、日本脳炎ワクチンの使用と重い副作用の症例(急性散在性脳脊髄炎)との因果関係がほぼ認められたからです。なお、(期14・15歳)は廃止になりました。

Q：日本脳炎の予防接種は今後できなくなるのですか。また、積極的勧奨を控えるということは「中止」ということなのですか。

A：現在でも日本脳炎の流行地域へ渡航する人、蚊に刺されやすい環境にある人など、日本脳炎に感染するおそれが高く、本人または保護者がとくに希望する場合は、接種することができます。その場合、日本脳炎ワクチンの効果および副作用を医師から説明を受け、同意書に署名した上で接種を受けることになります。

Q：接種を見合わせている間に日本脳炎にかかるのが心配ですが。

A：日本脳炎は「コガタアカイエカ」を媒介として感染します。刺されたからといって必ずしも発病するものでもありません。日本では昭和40年代以降、患者数は激減しています。ただし、一般的な注意として戸外へ出るときには、念のためできる限り長袖、長ズボンを身に着けるなど、ウイルスを持った蚊に刺されないよう十分に注意をすることをお勧めします。

Q：より安全なワクチンを開発中と聞きますが、いつから接種できますか。

A：リスクの低い組織培養法によるワクチンを開発中ですが、再開時期は未定です。

その他の注意事項

三種混合：百日ぜきにかかると接種が受けられません。生後3カ月を過ぎたら早めに接種しましょう。予防接種の間隔を守りましょう。三種混合や日本脳炎ワクチンは、高い効果を得るため接種間隔が法で定められています。体調を整えて、決められた間隔で接種しましょう。

予防接種について、くわしくは健康増進課 ☎27-1111)へ。